

事業コード	H18-建-継-9		区 分	国庫補助 県単独
事業名	国道道路改築費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	2次改築		班 名	高速道路国道班 (tel) 018-860-2488
路線名等	国道105号		担当課長名	檜森 悦朗
箇所名	由利本荘市大谷(岩谷道路)		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	03	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県管理国道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H13 ~ H19 (7年)		総事業費	23.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長 L=770m、幅員 W=7.0(12.0)m						
事業の立案に至る背景	岩谷道路は地域高規格道路「本荘大曲道路」の一部を構成する道路であり、早期の高速道路ネットワークの構築は県民の総意である。						
事業目的	当事業により日本海沿岸東北自動車道に直接接続することが出来、旧大内町岩谷方面から秋田市方向への利便性の向上を図るものである。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	2,600,000	2,298,000	-302,000			
	経費内訳	工事費	1,896,000	1,600,000	-296,000	4箇所のランプを2箇所とした	
		用補費	428,000	428,000	0		
		その他	276,000	270,000	-6,000		
	財源内訳	国庫補助	1,430,000	1,263,900	-166,100		
		県債	0	0	0		
その他		0	0	0			
一般財源	1,170,000	1,034,100	-135,900				
事業内容	調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工					
事業の進捗状況	調査、設計業務及び用地取得は完了している。H19年度の日本海沿岸東北自動車道本荘IC~岩谷IC間供用の工程に合わせて、工事を進捗中(進捗率:H17年度末68%、H18年度末で80%予定)である。						
事業推進上の課題	特になし。						
関連する計画等	あきた21総合計画における施策「高速交通ネットワークの整備」を支援する事業 日本海沿岸東北自動車道 本荘IC~岩谷IC						
情勢の変化及び長期継続の理由	情勢の変化:H17.3.22 旧大内町が周辺の市町村と合併して由利本荘市となる。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	最寄りのICまで概ね30分以内の市町村数					
	指標式						
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	3 市町村		データ等の出典	あきた21総合計画		
	実績値 b	3 市町村					
達成率 b/a	100.0 %		把握の時期	平成18年 7 月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	・特になし			
	指摘事項への対応			
・特になし				

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点		
必 要 性	H17センサスにおいて交通量13,946台/日、混雑度1.45、旅行速度28.5km/hと慢性的な交通渋滞が発生している	8点		
緊 急 性	本路線は県の主要プロジェクトである「高速交通ネットワークの整備」に位置づけられている 市町村合併支援道路の位置づけあり	10点		
有 効 性	第2次緊急輸送路指定路線である 大内インターより概ね30分以内の旧市町村は鳥海町、矢島町、由利町となっている また、新たに追加となる全国1日交通圏参入する市町村は鳥海町、矢島町である 自動車専用道路として平成12年10月都市計画決定されている	28点		
効 率 性	事業の費用便益比(B/C)は1.77である 計画交通量は9,100台/日である コスト縮減に寄与する二次製品を多用している 大内JICに接続する新たな自動車専用道路であり、日沿道と供用開始の工程調整を行って事業展開している	20点		
熟 度	事業の進捗率は82.6%である 用地取得は平成17年度に完了している	18点		
判 定	ランク () 「有効性」、「効率性」が高く、ランクも であることから引き続き実施すべき事業である	84点		
総 合 評 価	継続	改善して継続	見直し	中止
	事業継続は妥当である			

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H18-建-継-9)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)《2次改築事業》

箇所名 (由利本荘市大谷(岩谷道路))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	0	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	5		
	・最小半径 < 100m	1箇所	3		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	2次改築事業のため評価なし	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	15	8	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	12		
	・現道の旅行速度 30kn/h	3件該当	10		
	・現道の事故率 50件	2件該当	8		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	4			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	8	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無			5	
	・県の主要プロジェクト	あり	5		
	・地域振興プロジェクト	なし	0		
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5	
	位置づけなし	0			
特有の課題の有無	あり	5	0		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	10	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路	第1次輸送路	10	8	
		第2次輸送路	8		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	県内90分交通体系、全国1日交通圏等に関連	あり	10	10	
		なし	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	28	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.5以上	5	5	
		1.0以上~1.5未満	3		
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	5	5	
		1,000台/日以上~5,000台/日未満	3		
		1,000台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
	なし	0			
事業中止の影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	8	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	18	
合計			100	84	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		